

<報道発表資料>

令和 8 年 2 月 9 日
京都市交通局企画総務部財務課

令和 8 年度 市バス・地下鉄事業予算概要

令和 8 年度市バス・地下鉄事業予算概要を別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

<お問合せ先>

京都市交通局企画総務部財務課

電話：075－863－5080

(報道発表資料)

令和8年度

市バス・地下鉄事業予算概要



令和8年2月9日

京都市交通局

担当：企画総務部財務課

TEL：075-863-5080

【令和8年度に向けて】

令和7年度は、市バス・地下鉄ともに通勤・通学や観光客等による御利用が増加し、前年度を上回るお客様数が見込まれます。

そのような中、観光利用によって生じる市バスの一部路線・時間帯における混雑への対策をはじめ、「市バス運転士不足 非常事態宣言」を踏まえた担い手確保や物価高騰への対応が引き続き見込まれるなど、市バス・地下鉄のネットワークを守っていくことが非常に厳しい状況にあります。

令和8年度予算は、持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄を目指すことを基本方針に、市バス等の市民優先価格の実現をはじめ、市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手、市バスのリアルタイム運行情報の発信強化、地下鉄の烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置の推進、地下鉄駅へのエレベーター増設に向けた検討の着手、券売機での定期券発売機能の向上等の利便性向上策を実施するなど、将来を見据え、攻めの視点も取り入れた予算として編成しました。

また、昨年末に策定された「京都基本構想」の理念等を踏まえ、今般改定される「新京都戦略」に掲げる政策の実現に向けて取り組むことを基本とし、アフターコロナにおけるお客様数の動向や現下の人件費や燃料費等の運営コストの高騰等、経営環境が大きく変化している今、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定してまいります。

令和8年度予算

●基本方針

「京都基本構想」の理念等を踏まえ今般改定される「新京都戦略」に掲げる政策の実現に寄与する持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄を目指す。

●重要課題への対応

■市民生活と観光の調和・両立 ～市バスの混雑対策～

市バス等の市民優先価格の実現、市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手をはじめ、市バス輸送力を効果的、効率的に配分しつつ、地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散など、引き続き市バスの混雑対策等に取り組みます。

■将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

●予算の重点項目

■重点1 安全・安心の取組

■重点2 将来を見据えた経営戦略の推進 ※再掲

■重点3 利便性・快適性の向上

■重点4 社会課題解決への貢献等

●市バス・地下鉄の財政状況

（参考）令和8年度予算における宿泊税充当事業一覧

各項目に記載している金額は事業費の予算額（税込）を示します。

6ページ以降の見出しや事業名に（◎）のある項目は新京都戦略（改定案）に掲げる取組であることを示します。

新京都戦略（改定案）に掲げる交通局の取組について

京都基本構想の理念等を踏まえ、今般改定される新京都戦略のリーディング・プロジェクトや政策集に掲げる交通局の取組項目は次のとおりです。（箱書きは政策集に記載の取組項目で、★印はリーディング・プロジェクトであることを示します。）

柱1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」

（4）市民生活と「観光」の両立

- ① 国との連携による全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の「市民優先価格」の実現【R9】(★)と、バス・バス無料乗継などの運賃体系のあり方や二条城等の公共施設の「市民優先価格」など更なる市民サービス向上の検討
- ④ 観光特急バスの利用促進、リアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信強化【R8】、均一運賃系統における「前乗り後降り方式」の導入【R10以降】など、市バスの混雑対策の実施
- ⑤ デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入【R9】など、市バス・地下鉄のキャッシュレス化の更なる推進
- ⑥ 旅先を大切にする旅行者の心構えを示す「ツーリストシップ」の周知【R8】による観光マナーの啓発及び観光関連事業者・従事者等、観光客、市民の京都観光にかかわる三者がお互いに尊重し合う関係づくりの推進

（交通局における令和8年度及び令和9年度以降の主な取組）

- 市バス等の市民優先価格の実現に向けた市民周知、識別システムの構築や運賃箱等の機器改修（R8～9年度）P6
- 市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手（R8～11年度）P6
- 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化（R8～10年度）P6
- デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済（R7～9年度）P7
- 旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施等 P7
- 観光特急バスの利用促進 P7
- 京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動拡充 P7

柱5 豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした「自然環境と調和する持続可能なまち」

（4）持続可能な公共交通の維持、多様な主体との連携によるまちづくりの推進

- ① 利用者の減少や担い手不足により厳しい状況にあるバス路線を維持するための支援、デマンド交通など地域の実情に合わせた交通システムの検討【R8】(★)など、持続可能な公共交通ネットワークの形成の推進
- ② まちの持続可能性や市内移動の利便性の維持・向上、さらには、京都のまちの発展・魅力向上にも資する、新技術や新たな交通システムを含めた京都の交通のあり方の検討【R8】(★)
- ③ 洛西地域での自動運転バスの実証実験など、市バスにおける自動運転レベル4の実装化に向けた取組の推進(★)
- ④ 地域や交通事業者との連携による、高齢者なども含めたモビリティ・マネジメント(利用促進)の取組の推進

- ⑥ 持続可能な市バス・地下鉄事業運営のための運賃のあり方検討
- ⑦ 地下鉄烏丸線への可動式ホーム柵の全駅設置【R9】、四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター設置【R8】など地下鉄駅における更なるエレベーターの増設、駅トイレのアップグレードプロジェクト、券売機での定期券の発売券種やクレジットカードによる決済手段の追加、異常時にお客様へ情報を発信するディスプレイの設置【R9】など市バス・地下鉄を安心・安全・快適に御利用いただくための取組の推進
- ⑧ 地下鉄駅構内へのベビーケアルームの設置拡大や駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの拡充【R8】など市バス・地下鉄事業運営を通じた社会課題解決への貢献
- ⑨ 四条駅における大規模リニューアル【R10以降】など、地下鉄の駅施設等を活用した更なる賑わいの創出
- ⑩ 地域特性に応じた活性化プロジェクト(★)の市内周辺部の他の地域への拡大展開と新たな交通ネットワークの整備を図り、周辺自治体とも連携して京都全体の発展につなげ、広域的な都市圏「大京都圏」を創出

(交通局における令和8年度及び令和9年度以降の主な取組)

【市バス】

- 市バス車両の駐車ブレーキ注意喚起アラーム機能の追加やドライブレコーダーのリアルタイム通信機能拡充に向けた検討 P10
- 都市計画局と連携した自動運転（レベル4）による市バス等への自動運転バスの導入に向けた取組の推進 P9

【地下鉄】

- 地下鉄烏丸線への可動式ホーム柵の全駅設置（R8～12年度）P10
- 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター設置 P12
- 地下鉄駅における更なるエレベーターの増設 P12
- 駅トイレのアップグレードプロジェクト P13
- 緊急情報発信ディスプレイの設置（R8～10年度）P13
- 駅構内へのベビーケアルームの設置 P15
- 駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの拡充 P15
- 駅ナカビジネスの更なる増収に向けた四条駅における大規模リニューアル（基本構想の策定）P8

【両事業共通】

- 担い手の確保・育成等 P8
- 定期券購入の利便性向上（R8～9年度）P13
- 運賃制度の更なるシームレス化（「meetus 山科 - 醍醐」や「洛西“SAIKO”プロジェクト」の推進と連携したIC定期券の共通利用化等）P14

柱6 市民のいのち・暮らしを守る「安心安全で災害に強いレジリエントなまち」

(2) 防災減災のためのインフラ整備・維持管理

- ⑤ 地下鉄駅出入口等の浸水対策強化【R8】など、豪雨災害の激甚化・頻発化に伴う地下鉄施設の災害対策の強化

(交通局における令和8年度及び令和9年度以降の主な取組)

- 地下鉄駅出入口等の浸水対策の強化 P11
- 地下鉄における気象予報アプリの導入 P11

1 令和7年度決算見込と令和8年度予算案

(1) 予算の概要

(令和7年度の決算見込の状況)

- ア お客様数は、通勤・通学による定期利用をはじめ、観光客等による定期外の御利用が増加傾向にあり、年間を通じた全体のお客様数は、前年度（令和6年度）との比較では1日当たり市バスで9千人増、地下鉄で13千人増を見込む
- イ 市バスは、お客様数の回復や、平均乗車単価を他都市並み水準へ改善させてきたものの、処遇改善のための人件費や物価の高騰による影響が大きく1億円の経常赤字が見込まれる状況
- ウ 地下鉄は、市バスからの利用誘導や通勤・通学で御利用いただくお客様数が安定的に推移していることもあり、処遇改善のための人件費や物価の高騰による影響を受けながらも19億円の経常黒字が見込まれる状況

(令和8年度の見通し)

- エ 市バスは、お客様数の堅調な推移を見込む一方で、バス運転士等の処遇改善のための人件費をはじめ、旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施や均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手など将来を見据えた新規事業に着手することによる支出の増加により9億円の経常赤字を見込む
- オ 地下鉄は、好調なお客様数に支えられ9億円の経常黒字を見込む一方、この間、着実に減少させてきたものの企業債残高は約2,800億円と依然として高い水準にあり、今後も引き続き厳しい経営状況
- カ この間「明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”」を強力に推し進めてきた成果もあり、両事業あわせて収支均衡となるなど財政面でも大きく改善
- キ 令和8年度予算は、持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄を目指すことを基本方針に、市バス等の市民優先価格の実現をはじめ、市バスの前乗り後降り方式の導入着手、市バスのリアルタイム運行情報の発信強化、地下鉄の烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置の推進、地下鉄駅へのエレベーター増設に向けた検討の着手、券売機での定期券発売機能の向上等の利便性向上策を実施するなど、将来を見据え、攻めの視点も取り入れた予算として編成
- ク このような中、「京都基本構想」の理念と「新京都戦略」（令和8年3月改定）に掲げる政策の実現に向けて取り組むことを基本とし、アフターコロナにおけるお客様数の動向や現下の人件費や燃料費等の運営コストの高騰等、経営環境が大きく変化している今、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定していく

(2) 予算の主要数値

【市バス】

	7年度予算 A	8年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	810両	810両	—
走行キロ数 〔1日平均〕	80.9千km	81.0千km	0.1千km
経常損益	▲8億円	▲9億円	▲1億円
▲累積欠損金	▲16億円	▲10億円	6億円
資金剰余	18億円	25億円	7億円
年度末企業債 残高	95億円	89億円	▲6億円

【地下鉄】

	7年度予算 A	8年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	222両 〔37編成〕	222両 〔37編成〕	—
走行キロ数 〔1日平均〕	57.0千km	57.0千km	—
経常損益	5億円	9億円	4億円
▲累積欠損金	▲3,082億円	▲3,048億円	34億円
▲累積資金不足	▲504億円	▲524億円	▲20億円
年度末企業債 残高	2,968億円	2,810億円	▲158億円

(3) お客様の御利用状況

【市バス】

(単位：千人/日)

	6年度 決算	7年度		8年度 予算 B	対前年 増減率		(参考) 元年度 決算
		予算 A	見込		増減 B-A	(B-A)/A	
市バス	340	343	349	357	14	4.1%	357
うち定期	97	96	100	103	7	7.3%	96
うち通勤	74	74	78	82	8	10.8%	72
うち通学 (大学)	17	16	18	19	3	18.8%	17
うち定期外	188	192	195	201	9	4.7%	187

(参考)

運賃収入 (億円/税抜)	207	210	215	220	10	4.8%	200
-----------------	-----	-----	-----	-----	----	------	-----

【地下鉄】

(単位：千人/日)

	6年度 決算	7年度		8年度 予算 B	対前年 増減率		(参考) 元年度 決算
		予算 A	見込		増減 B-A	(B-A)/A	
地下鉄	402	403	415	426	23	5.7%	400
うち定期	171	170	176	181	11	6.5%	168
うち通勤	113	113	117	122	9	8.0%	109
うち通学 (大学)	40	38	41	42	4	10.5%	40
うち定期外	214	216	222	229	13	6.0%	208

(参考)

運賃収入 (億円/税抜)	263	263	272	280	17	6.5%	258
-----------------	-----	-----	-----	-----	----	------	-----

2 重要課題への対応

1 市民生活と観光の調和・両立 ～市バスの混雑対策～

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、本市の観光課題対策に取り組みます。

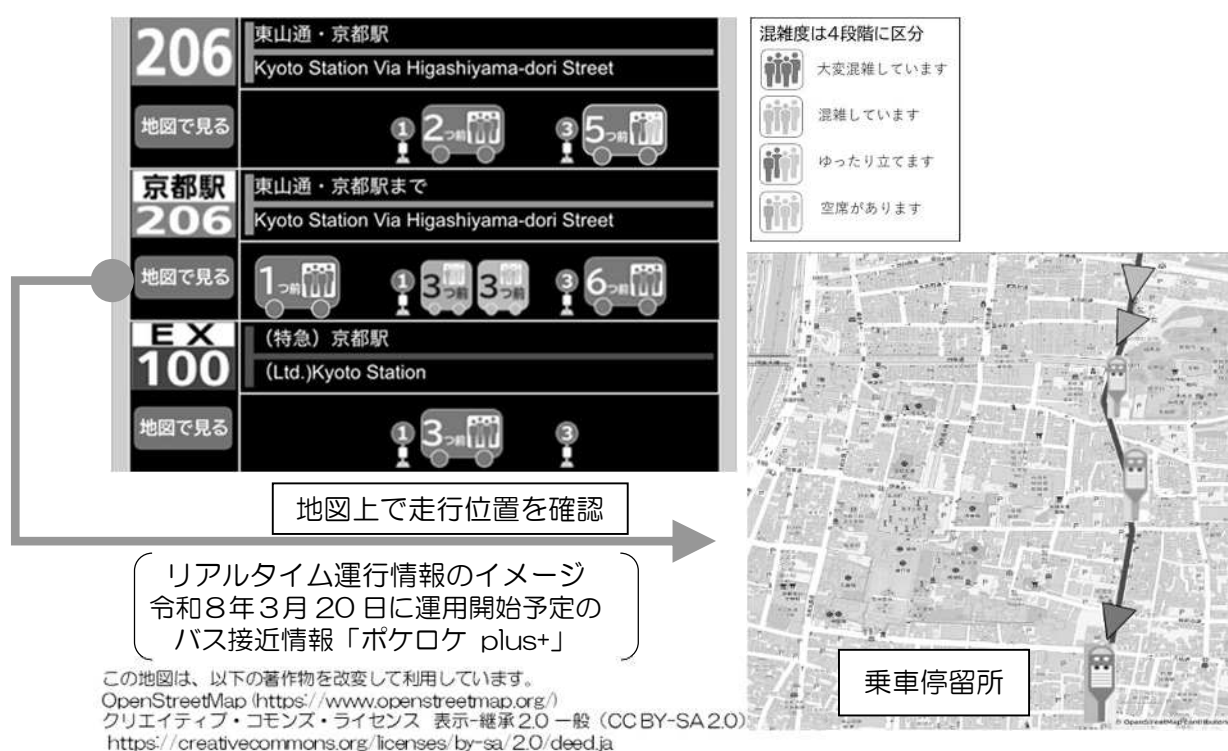
(1) 市バス等の市民優先価格の実現 (◎)

全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の市民優先価格について、観光が市民生活の豊かさに繋がることを市民に実感していただくことで、市民と観光客が共存する機運の醸成に繋げ、市民生活と観光の調和を目指します。令和9年度中の実現に向け、市民周知、識別システムの構築や運賃箱等の機器改修に着手します。(R 8～9年度 925,065 千円)

(2) 市バスの混雑対策

ア 限りある市バス輸送力の効果的・効率的な配分等 (◎)

- ① 均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手
(181,104 千円)
- ② 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化
 - ・令和7年度の交通局ホームページでの発信（市バスの車内混雑度や走行位置）に加え、令和10年度にはバスの到着予定時刻等を経路検索事業者が地図アプリ等で発信（オープンデータ化）できるようシステム改修に着手（R 8～10年度 798,970 千円）
 - ・バスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻の発信）に向けアナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施（100 か所 154,000 千円）



- ③ デジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入推進
スマートフォンで企画乗車券の利用が可能となるデジタル乗車券と
クレジットカードによるタッチ決済の導入
(R 7～9年度 1,755,582 千円)
- ④ 旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施等
 - ・観光利用の回復がみられる一方、全国的に深刻な担い手不足などがあり、さらに市民優先価格の導入を令和9年度に控えるなど、市バス事業をとりまく環境が大きく変化する中、限りある輸送力をより一層効果的かつ効率的に配分していくため、御利用状況を詳細に把握する調査を実施(241,000 千円)
 - ・路線、ダイヤのあり方を検討していくため、乗降人員や遅延状況等の客観的なデータ分析を行うための基盤を整備(27,500 千円)

イ 地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散(◎)

- ① 京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動拡充
語学が堪能な学生スタッフ等により、市バスの分散乗車をはじめ、地下鉄への利用誘導、大型手荷物の車内持ち込みの抑制に向けた手ぶら観光の推奨等を実施。なお、お客様の増加に対応し「金閣寺道」をはじめ観光地最寄りのバス停での活動を充実(62,633 千円)
- ② 京都駅前バスのりばや主要観光地周辺のバス停における整列、誘導を行う案内活動の実施(102,304 千円)
- ③ 観光シーズンにおける京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替(5,440 千円)
- ④ 「地下鉄・バス1日券」の販売をはじめとする鉄道への利用誘導
 - ・WEB媒体を活用した「旅マエ」でのPR(11,000 千円)
 - ・航空機内、空港、鉄道駅、関西空港リムジンバス車内、宿泊施設等における「旅ナカ」でのPR(23,507 千円)
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施(10,000 千円)
 - ・観光シーズンにおけるJR東海京都駅での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売

ウ 観光特急バスの利用促進(◎)

- ① 効果検証結果を踏まえた運行パターン・ダイヤの見直し
 - ・EX100号系統とEX101号系統の運行パターンの見直し
 - ・お帰りの時間帯におけるEX100号系統について、午後の清水道(始発)便を祇園(始発)便に変更(令和8年3月実施)
- ② WEB媒体を活用した「旅マエ」でのPR(11,000 千円) ※再掲
- ③ 航空機内、空港、鉄道駅、関西空港リムジンバス車内、宿泊施設等における「旅ナカ」でのPR(23,507 千円) ※再掲

2 将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通DXの推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

(1) 担い手の確保・育成等

ア 更なる処遇改善や職場環境の改善等 (◎)

- ① 公休日数の増加や勤務間インターバルの改善
- ② 市バス営業所や地下鉄保守事務所等における女性用施設の整備、仮眠室・休憩室の改修等 (113,965 千円)

イ 採用に係るPRや受験機会の拡大 (◎)

- ① 働きやすい職場認証制度の二つ星取得 (160 千円)
- ② 求人イベントへの出展や市バス運転体験会の開催等 (2,930 千円)
- ③ 大型二種免許取得費用の助成 (30,879 千円)



「働きやすい職場」
認証マーク

ウ 職員のスキルアップやモチベーションアップの取組

- ① 「運転技能・接遇コンテスト」の開催 (500 千円)
- ② 資格取得支援制度によるスキルアップの奨励 (300 千円)

(2) 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

ア 利用促進・収入増加策

- ① 1人でも多くのお客様に御利用いただくための取組
 - ・地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部による全庁体制での「市バスの赤字系統の利用促進」及び「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に向けた取組の推進
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施 (10,000 千円) ※再掲
 - ・民間事業者・大学等との連携による利用促進
- ② 駅ナカビジネスの増収策 (◎)
 - ・四条駅における大規模リニューアルに向けた基本構想の策定 (R8～9年度 45,760 千円)
 - ・小規模スペースを有効活用した自動販売機の増設やイベントスペースの利用促進等 (7,260 千円)
- ③ 広告料収入をはじめとしたあらゆる増収策の実施
 - ・デジタルサイネージ等のクライアントニーズの高い広告媒体の増設や広告代理店と連携した販売促進
 - ・まちピンチキャラクターのLINEスタンプの販売等
 - ・ふるさと納税制度による寄付や交通局の返礼品での資金調達

イ 経費削減策

- ① 市バス車両のリース方式での調達による企業債償還負担の軽減
- ② 地下鉄駅の有人改札業務のリモート化の拡大
(北山、鞍馬口、丸太町、五条、十条、くいな橋)
- ③ 改集札機のＩＣ専用機導入等による保守管理費用の削減等
- ④ 設備更新による電力使用量の削減
 - ・エレベーターの更新（丸太町、二条城前）
 - ・駅舎等における照明のＬＥＤ化（六地藏、石田ほか）

ウ 経営状況の見える化

- ① ＳＮＳ等でのまちピンチキャラクターを活用した経営状況の発信
- ② 広告の空き枠（市バス車両の外側看板や地下鉄駅の電照広告）を活用した経営状況等の発信

エ 国の支援制度の活用や国・府への要望活動の実施

- ① 担い手確保や物価高騰、交通ＤＸ・ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）に対する支援拡充
- ② 地下鉄事業における可動式ホーム柵等のバリアフリー対策や駅出入口等の浸水対策に係る国庫補助制度の継続・拡充等

(3) 交通ＤＸの推進

ア 限りある市バス輸送力の効果的・効率的な配分等

- ① 路線・ダイヤ編成に向けたデータ分析基盤の整備（27,500千円）※再掲
- ② 都市計画局と連携した自動運転（レベル４）による市バス等への自動運転バスの導入に向けた取組の推進

イ 生成ＡＩサービス等のデジタルツールの導入

- ① 更なる事務効率化の推進（16,374千円）
幅広い情報収集や新しい事業アイデアの創出等に活用できる生成ＡＩサービスや、システム構築に関する専門知識が無い職員でも業務アプリ等を開発できるデジタルツールの活用
- ② 地下鉄トンネル等検査業務のＤＸ化
 - ・車両前方に高精細カメラやセンサーを設置することでトンネル等の状態をＡＩにより自動解析する仕組みの構築に向けた試験運用を実施（Ｒ８～９年度 11,000千円）
 - ・軌道保守管理システムを導入し、効率的にレールを管理、整備していくために、軌道や車両のデータベース構築に必要な測定や調査を実施（17,314千円）

(4) 次期経営計画の策定

この間のお客様数の動向や運営コストの高騰等の大きな経営環境の変化を踏まえ、交通ＤＸの推進を図るなど幅広い分野について、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を前倒しで策定（2,834千円）

3 予算の重点項目

重点1 安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

1 輸送の安全確保に向けた取組

(1) 市バスの安全対策

ア 輸送の安全確保に係る研修等

- ① 安全運転訓練車によるセーフティーサポート研修
- ② 運転士向け事故防止重点研修等の実施（5,567 千円）
- ③ 事故多発者に向けた外部機関による研修プログラム（913 千円）
- ④ 運転士の安全意識向上やモチベーションアップに向けた「運転技能・接遇コンテスト」の実施（500 千円） ※再掲

イ 車両や設備の安全対策に係る投資等

- ① 市バス車両の計画的更新（R 8 年度 55 両 1,348,904 千円）
- ② 駐車ブレーキ注意喚起アラーム機能の追加（16,225 千円）（◎）
- ③ ドライブレコーダーのリアルタイム通信機能拡充に向けた検討（1,643 千円）（◎）
- ④ 安全対策が必要と思われるバス停に係る対策の検討（1,000 千円）
- ⑤ 歩道のかさ上げなどバス停におけるバリアフリー改修（3,000 千円）

(2) 地下鉄の安全対策

ア 輸送の安全確保に係る研修等

- ① 駅係員や乗務員への定期教育訓練の実施

イ 車両や設備の安全対策に係る投資等

- ① 烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置（◎） ※総事業費約 45 億円
R 8 年度 …設計及び工事着手に向けた調査等（53,698 千円）
R 9～12 年度…可動柵の製作、設置
（R 10 年度から、順次供用開始、R 12 年度完成予定）



烏丸線可動式ホーム柵

- ② 既存車両への車内防犯カメラの設置（28,716 千円）
R 8 年度…烏丸線 3 編成（累計 15 編成 ※新造車両 9 編成を含む）、
東西線 5 編成（累計 10 編成）
- ③ 地下鉄トンネル等検査業務の D X 化 ※再掲
 - ・車両前方に高精細カメラやセンサーを設置することでトンネル等の状態を A I により自動解析する仕組みの構築に向けた試験運用を実施（R 8～9 年度 11,000 千円）
 - ・軌道保守管理システムを導入し、効率的にレールを管理、整備していくために、軌道や車両のデータベース構築に必要な測定や調査を実施（17,314 千円）

2 災害対策、犯罪防止の取組

- ① 地下鉄駅出入口等の浸水対策の強化（58,000 千円）（◎）
※2月補正で計上
工事…北山、今出川、烏丸御池、四条、
変電所（姉小路、勧進橋）、柳馬場中間換気所
設計…醍醐、西大路御池、松ヶ崎、九条、
変電所（国際会館、天神川）
六条中間換気所 ※いずれも R 9 年度工事予定
- ② 地下鉄における気象予報アプリの導入（◎）
1 平方キロメートル単位に細分化された詳細な予報による駅ごとの警戒情報に基づきより迅速に止水板の設置等を実施（389 千円）
- ③ 車内放送等による啓発や警察・大学等と連携した痴漢・盗撮対策など犯罪防止に向けた取組
- ④ 警察・消防など関係機関との連携による火災やテロ対策等を想定した合同訓練の実施



市バス洛西営業所で実施した
テロ対策訓練の様子



烏丸線北大路駅で実施した
合同防災訓練の様子

重点2 将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通 D X の推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

重点3 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

1 市バス

(1) 利便性・快適性の向上策

ア 均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手 ※再掲
(181,104 千円)

イ 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化 ※再掲

- ① 令和7年度の交通局ホームページでの発信（市バスの車内混雑度や走行位置）に加え、令和10年度にはバスの到着予定時刻等を経路検索事業者が地図アプリ等で発信（オープンデータ化）できるようシステム改修に着手（R8～10年度798,970千円）
- ② バスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻の発信）に向けアナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施（100か所154,000千円）

ウ バス待ち環境向上

- ① バス停上屋の新設及び老朽化した上屋の更新（33,977千円）
- ② バス停標識柱の更新等による照明のLED化（21,960千円）
- ③ ベンチの新設・更新（2,963千円）
- ④ 夏期におけるドライ型ミスト装置の稼働（8,713千円）



バス停上屋

2 地下鉄

(1) 利便性・快適性の向上策

ア エレベーター（E V）の増設

- ① 四条駅の阪急連絡通路へのE V新設（67,650千円）（◎）
- ② 地下鉄駅へのE V増設に向けた検討の着手
(45,000千円)（◎）



四条駅の阪急連絡通路へのエレベーターの設置イメージ

イ 駅トイレのアップグレードプロジェクト（◎）

地下鉄駅トイレについて、「美装化」や、温水洗浄便座の設置、洋式化などの「バリアフリー化」を行うとともに、パウダーコーナーの設置や女性トイレの個室の増設を検討するなど「女性用トイレのアップグレード」を戦略的に実施

- ① アップグレード（117,131 千円）
四条（地下2階）…R 8年度（工事）
東山、烏丸御池 …R 8年度（設計）、R 9年度（工事）
- ② 温水洗浄便座の設置（9,000 千円）
京都市役所前、二条城前、丸太町、竹田（北）…R 8年度（設置）
今出川…R 8年度（設計）、R 9年度（設置）
- ③ 特別清掃の継続
特に御利用の多い3駅（烏丸御池、四条、京都）で日常のトイレ清掃に加え、特別清掃の実施を継続（1駅6回／年）
- ④ 日常のトイレ清掃回数の充実を継続
特に御利用の多い3駅（烏丸御池、四条、京都）で日常のトイレ清掃回数の充実を継続（5回から6回／日）

ウ 列車案内表示器の新設

近鉄線の機器更新に合わせた竹田駅コンコース階への列車案内表示器の設置（21,450 千円） ※烏丸線の他の全駅はR 2～5年度にかけて設置済、東西線はH 9年度の開業当初から設置済



竹田駅コンコース階への
列車案内表示器の設置イメージ

エ 緊急情報発信ディスプレイの設置（◎）

異常時におけるお客様への情報提供を充実するため、地下鉄及び地下鉄と接続する他社線の運行情報や振替輸送情報等を発信する大型ディスプレイを全駅の改札口に設置（R 8～10年度 700,590 千円）

3 両事業共通

（1）定期券購入の利便性向上

ア 定期券の発売体制の強化

「西賀茂営業所」及び「横大路営業所」（いずれも月末と月始の3日間のみ営業）での販売を取りやめ、定期券発行機を「京都駅前」及び「北大路」（いずれも年末年始を除く年中無休）に移設し発売体制を強化（24,695 千円）

イ 地下鉄駅券売機での定期券発売機能の向上 (◎)

券売機を改修し、発売券種やクレジットカードによる決済手段を追加 (R 8～9年度 321,200 千円)

【地下鉄駅の券売機で購入が可能となる券種】

	現状	改修後 (☐ が充実部分)
購入可能 券種	地下鉄単独 (通勤/継続)	地下鉄単独 (通勤/ ☐ 新規・継続)
	地下鉄-民鉄連絡 (通勤/継続)	地下鉄-民鉄連絡 (通勤/ ☐ 新規・継続)
		☐ 市バス単独 (通勤/新規・継続)
		☐ 市バス-地下鉄連絡 (通勤/新規・継続)
決済手段	現金のみ	現金・ ☐ クレジットカード

(2) 運賃制度の更なるシームレス化 (◎)

「meetus 山科-醍醐」や「洛西“SAIKO”プロジェクト」の推進と連携した取組の一環として、IC定期券の共通利用化等、同地域を運行する民間バス事業者との運賃制度のシームレス化を実施 (令和9年春予定)

(3) デジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入推進※再掲

スマートフォンで企画乗車券の利用が可能となるデジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入 (R 7～9年度 1,755,582 千円)

重点4 社会課題解決への貢献等

子育て支援、女性活躍支援や事業活動における環境への配慮など社会課題解決への貢献に向けた取組や文化と経済の好循環の創出に向けた取組を展開します。

1 社会課題解決への貢献等

(1) 市バスの取組

ア 環境負荷の低減に向けた取組

- ① 電気バスの導入（2両）（R8年3月運行開始）
- ② バス停標識柱や建物照明のLED化（梅津営業所整備棟ほか）

(2) 地下鉄の取組

ア 環境負荷の低減に向けた取組

- ① 設備更新による電力使用量の削減 ※再掲
- ② 駅舎等における照明のLED化（六地蔵、石田ほか） ※再掲

イ バリアフリーの取組

- ① 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設 ※再掲
- ② 地下鉄駅へのエレベーター増設に向けた検討の着手 ※再掲
- ③ 温水洗浄便座の計画的設置 ※再掲

ウ 社会課題解決への貢献等

- ① 女性用トイレのアップグレード ※再掲
- ② ベビーケアルームの設置継続（3,287千円）（◎）
- ③ 駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの拡充（398千円）（◎）

生理用品の無料提供サービス
「toreluna（トレルナ）」



(3) 両事業共通の取組

ア 社会課題解決への貢献の取組等

- ① 交通サポートマネージャーの養成（760千円）
- ② エスカレーターの利用に係る啓発

2 文化芸術振興に係る取組

- ① 多様な文化・芸術イベント等と連携した利用促進の取組
- ② サブウェイ・パフォーマー事業の実施
- ③ KYOTO駅ナカアートプロジェクトの実施（4,250千円）

4 市バス・地下鉄の財政状況

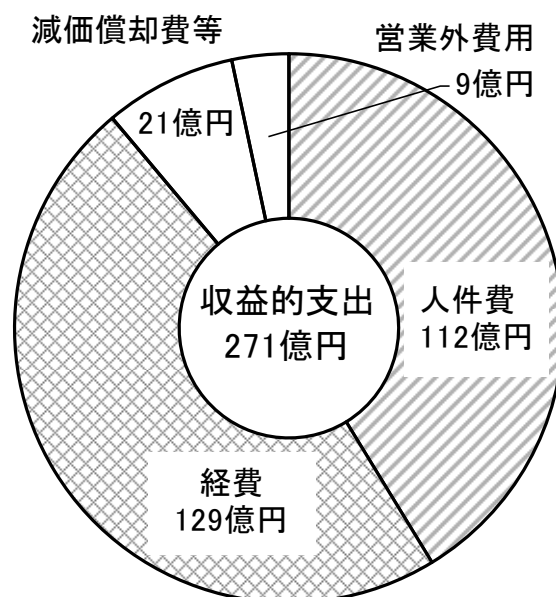
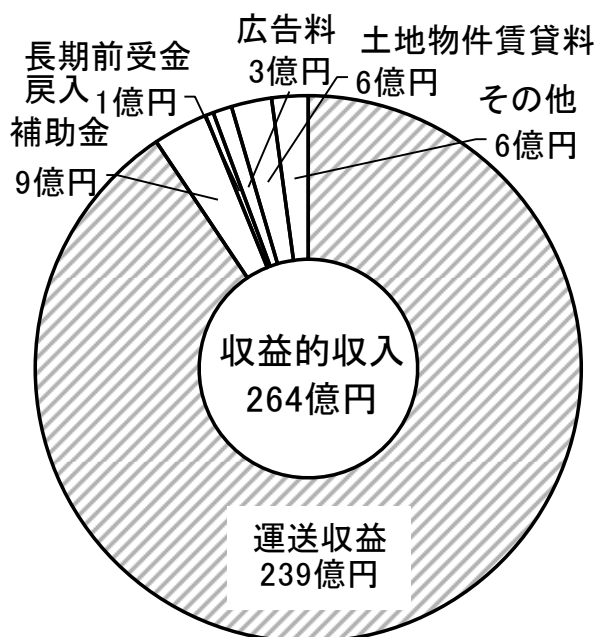
【市バス】

		(税込額)					
区 分		R8年度予算(A)		R7年度予算(B)		差引増▲減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営 業 収 益	248	50	237	47	11	03
	うち運 送 収 益	238	63	227	71	10	92
	営 業 外 収 益	15	87	13	26	2	61
	うち一般会計補助金	8	57	7	31	1	26
	収 入 計	264	37	250	73	13	64
	営 業 費 用	261	81	247	66	14	15
	うち人 件 費	111	83	104	66	7	17
	うち経費(燃料費・修繕費等)	128	92	123	59	5	33
	うち減価償却費等	21	06	19	41	1	65
	営 業 外 費 用	9	13	8	28		85
	支 出 計	270	94	255	94	15	00
	経 常 損 益	▲ 8	73	▲ 7	95	▲	78
純	損 益	▲ 8	73	▲ 7	95	▲	78
▲	累 積 欠 損 金	▲ 9	89	▲ 15	73	5	84
資本的収支	収 入	26	24	31	07	▲ 4	83
	うち企 業 債	20	08	25	04	▲ 4	96
	うち補 助 金	4	48	5	56	▲ 1	08
	支 出	48	96	52	27	▲ 3	31
	うち建 設 改 良 費	25	48	30	62	▲ 5	14
	うち企 業 債 償 還 金	22	98	21	15	1	83
	差 引	▲ 22	72	▲ 21	20	▲ 1	52
資	金 剰 余	24	95	18	20	6	75
年 度 末	企 業 債 残 高	89	01	94	83	▲ 5	82

※経常損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

(収入・支出の内訳)

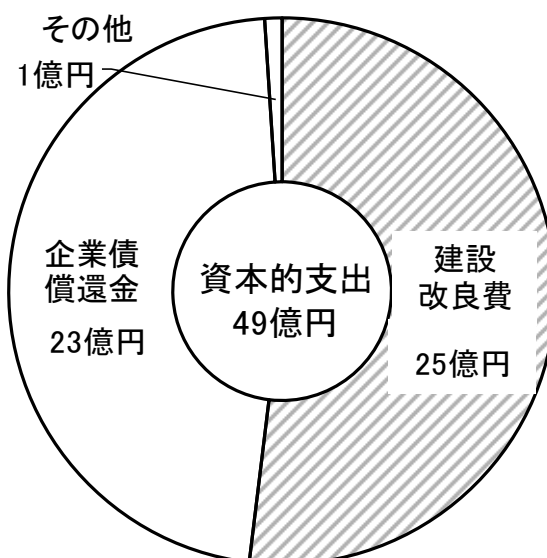
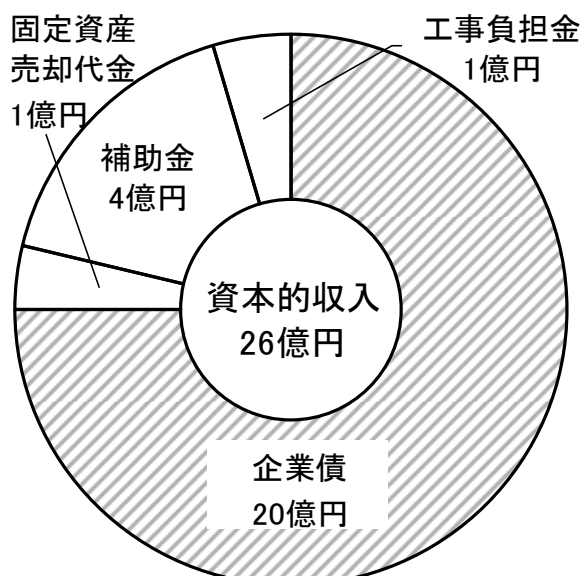
【収益的収支】



【補助金内訳(収益)】

市補助	8.6億円
府補助	0.1億円

【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

市補助	4.5億円
-----	-------

【地下鉄】

(税込額)

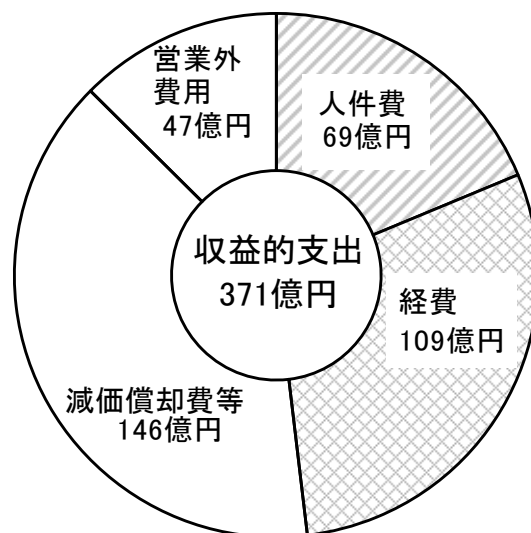
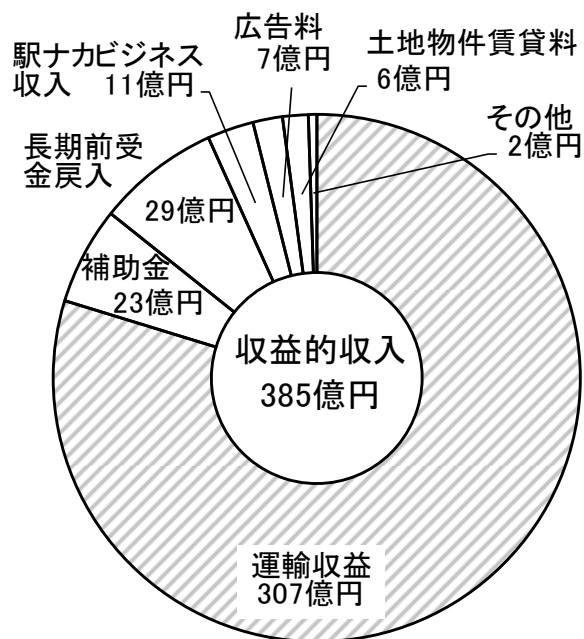
区 分		R8年度予算(A)		R7年度予算(B)		差引増▲減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的 収 支	営 業 収 益	332	99	314	67	18	32
	うち 運 輸 収 益	306	51	288	67	17	84
	営 業 外 収 益	52	49	52	27		22
	うち 一 般 会 計 補 助 金	23	04	22	41		63
	収 入 計	385	48	366	94	18	54
	営 業 費 用	324	38	314	05	10	33
	うち 人 件 費	69	49	66	23	3	26
	うち 経費(動力費・修繕費等)	108	89	101	20	7	69
	うち 減 価 償 却 費 等	146	00	146	62	▲	62
	営 業 外 費 用	47	17	41	88	5	29
	支 出 計	371	55	355	93	15	62
	経 常 損 益	9	39	5	22	4	17
	現 金 収 支(償却前損益)	123	99	119	75	4	24
▲ 累 積 欠 損 金		▲3,047	74	▲3,082	05	34	31
資本的 収 支	収 入	221	76	221	38		38
	うち 企 業 債	189	92	178	74	11	18
	うち 補 助 金	21	82	28	88	▲7	06
	うち 出 資 金	9	67	12	75	▲3	08
	支 出	402	55	413	56	▲11	01
	うち 建 設 改 良 費	50	52	64	75	▲14	23
	うち 企 業 債 償 還 金	351	03	347	81	3	22
	差 引	▲180	79	▲192	18	11	39
▲ 累 積 資 金 不 足		▲523	65	▲504	18	▲19	47
年 度 末 企 業 債 残 高		2,809	89	2,968	00	▲158	11

※経常損益、現金収支、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

※R7年度予算同様、R8年度予算では、財政健全化法における資金不足額は生じない。

(収入・支出の内訳)

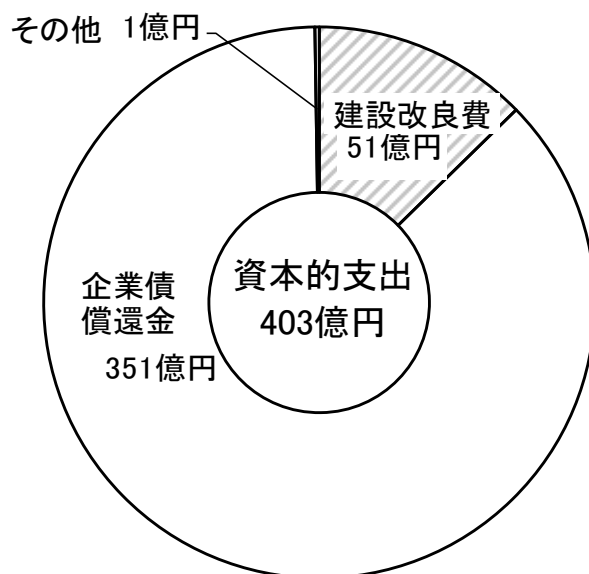
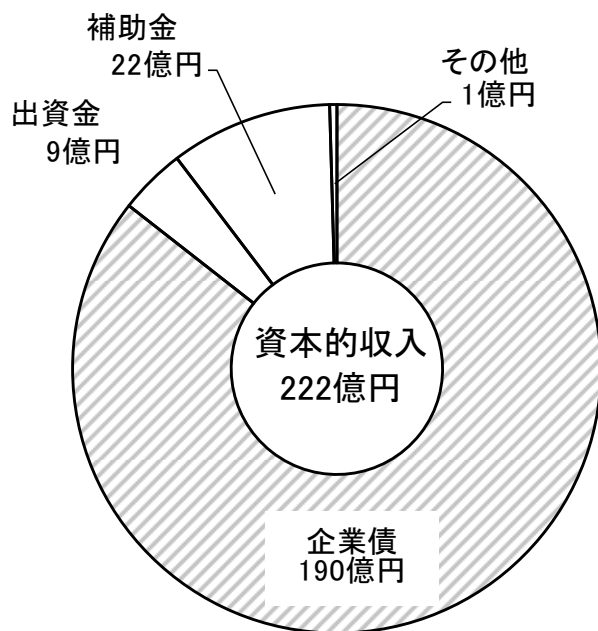
【収益的収支】



【補助金内訳(収益)】

国補助	-
府補助	0.1億円
市補助	23億円

【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

国補助	0.1億円
府補助	1.6億円
市補助	20.1億円

(参考) 令和8年度予算における宿泊税充当事業一覧

観光課題対策に資する市バスの混雑対策や受入環境整備事業等に
総額で約 6.6 億円（市バス約 4.3 億円、地下鉄約 2.3 億円）を活用します。

(単位：千円、税込)

混雑対策・受入環境整備事業【宿泊税充当事業】		8年度 予算	市バス	地下鉄
		1,674,369	1,159,600	514,769
		654,000	427,000	227,000
収益的 収入	市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手	181,104	181,104	—
		90,600	90,600	—
	担い手の確保に向けた職場環境の改善等	4,246	1,113	3,133
		2,123	557	1,566
	旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施	241,000	191,000	50,000
		120,500	95,500	25,000
	バス待ち環境の向上	2,160	2,160	—
		1,080	1,080	—
	歩道のかさ上げなどバス停におけるバリアフリー改修	3,000	3,000	—
		1,500	1,500	—
	京都市バス「おもてなしコンシェルジュ」の活動充実	62,633	62,633	—
		31,316	31,316	—
	地下鉄駅におけるトイレのアップグレードプロジェクト	1,000	—	1,000
		500	—	500
	ベビーケアルームの設置継続	3,287	—	3,287
		1,643	—	1,643
	地下鉄駅トイレにおける便座クリーナーの設置	2,937	—	2,937
		1,468	—	1,468
	地下鉄をより快適に御利用いただくための駅トイレ清掃の充実	6,600	—	6,600
		3,300	—	3,300
	地下鉄駅構内におけるラインの更新による安全・安心な利用環境の整備	1,790	—	1,790
		895	—	895
	デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入推進（◇）	5,000	2,200	2,800
		1,000	200	800
	「地下鉄・バス1日券」の販売をはじめとする鉄道への利用誘導	34,507	15,183	19,324
		17,253	7,591	9,662
	地下鉄・市バスを組み合わせた利用促進	29,619	13,032	16,587
		14,809	6,516	8,293
	「修学旅行1dayチケット」の販売	50,475	33,650	16,825
		25,237	16,825	8,412
	夏期におけるドライ型ミスト装置の稼働	8,713	8,713	—
		4,356	4,356	—
	観光地周辺のバス停における案内や整列・誘導による混雑対策	63,556	63,556	—
		31,778	31,778	—
	京都駅前バスターミナル乗り場案内	38,748	38,748	—
		19,374	19,374	—
	市バスから地下鉄への無料振替による渋滞対策	5,440	5,440	—
		2,720	2,720	—
	主要バスのりばにおける分かりやすい案内表示への修正	7,219	7,219	—
		3,609	3,609	—
	四条河原町（西行）バス停における車外での運賃収受によるバスの停車時間短縮	5,847	5,847	—
		2,923	2,923	—
	市バスにおける4か国語コミュニケーションボードの修正	213	213	—
		106	106	—
	観光特急バスの利用促進による混雑緩和	13,312	13,312	—
		6,656	6,656	—
	どなたにも快適に御利用いただけるトイレの清掃・維持管理	5,933	1,036	4,897
		2,966	518	2,448
	混雑緩和に向けた市バスの増車（9両） （端数調整分を含む）※令和6年6月実施分	2,566	2,566	—
		1,635	1,635	—
	小計	780,905	651,725	129,180
		389,347	325,360	63,987

資 本 的 収 入	路線・ダイヤ編成に向けたデータ分析基盤の整備	27,500	27,500	—
		13,800	13,800	—
	担い手の確保に向けた職場環境の改善等	89,959	13,915	76,044
		44,979	6,957	38,022
	バス待ち環境の向上	16,386	16,386	—
		8,193	8,193	—
	デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入推進（◇）	237,369	161,469	75,900
		24,369	16,469	7,900
	混雑緩和に向けた市バスの増車（9両） （端数調整分を含む）※令和6年6月実施分	63,517	63,517	—
		32,133	32,133	—
	地下鉄駅におけるトイレのアップグレードプロジェクト	100,131	—	100,131
		50,065	—	50,065
	バスロケーションシステムのデジタル方式への切り替え（◇）	154,000	154,000	—
		16,000	16,000	—
	市バスのリアルタイム運行情報の発信強化（◇）	71,088	71,088	—
		8,088	8,088	—
	烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置に向けた設計等	37,698	—	37,698
		18,849	—	18,849
	地下鉄既存車両への車内防犯カメラの設置	23,716	—	23,716
		11,858	—	11,858
	地下鉄四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設	54,650	—	54,650
		27,325	—	27,325
	竹田駅コンコース階への列車案内表示器の新設 （端数調整分を含む）	17,450	—	17,450
		8,994	—	8,994
	小計	893,464	507,875	385,589
		264,653	101,640	163,013

- ・表中の金額のうち上段は経費、下段は宿泊税充当額を示します。
- ・表中の（◇）は宿泊税と併用し「デジタル活用推進事業債」（地方債充当率90%、交付税措置率50%）を活用した一般会計補助金の繰り入れを想定している事業であることを示します。